

次の文を読み1～3の問いに答えよ。

Aさん(60歳、女性)は教師として長年勤務し、昨年退職した。住民健診で、脂質異常症と高血圧を指摘された。

1 Aさんは、「これまで病気なんてしたことが無いので驚いています。血圧は若いころは低いくらいだったし、信じられません」と言っている。Aさんが今後発症する可能性があるのはどれか。

1. 月経不順
2. 更年期障害
3. 虚血性心疾患
4. くる病

2 Aさんは身長153cm、体重60kg、血圧140/85mmHgである。血液検査の結果、TG180mg/dL、LDL156mg/dL、HDL40mg/dLで、シンバスタチン(HMG-CoA還元酵素阻害薬)とニフェジピン(カルシウム拮抗薬)の内服治療が開始されることになった。食事療法と運動療法について、Aさんへの声かけで適切なのはどれか。

2つ選べ。

1. 「1日の食塩摂取量は6g未満を目標にします」
2. 「オレンジジュースは禁止です」
3. 「お酒とたばこは禁止です」
4. 「毎日30分は運動してください」
5. 「1日どれぐらい歩いていますか」

3 運動することを指導されたが、Aさんは「以前にがんばって運動をしていたが、体重がちっとも減らなかった」と言っている。Aさんに行われる支援として適切なのはどれか。

1. 自分がしっかりしないとだめだと説得する
2. 体重が減らなくても運動には効果があることを説明する
3. 看護師が具体的な運動計画を立てる
4. 食事制限を厳しく行う

次の文を読み4～6の問いに答えよ。

Aさん(56歳、女性)は、職場の健康診断で便鮮血が指摘され、精密検査を行った。検査の結果、直腸下部に腫瘍があり、直腸癌と診断され、手術目的で入院した。

4 Aさんには腹会陰式直腸切断術(マイルズ術)が行われることになった。

術前の看護で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 手術の前日の夜8時まで普通食とする
2. 深呼吸の練習を行う
3. ストーマサイトマーキングを行う
4. 情緒の安定のため、術後の経過は説明しない
5. 術後に便意が生じた場合の対処を説明する

5 術後4日に、ドレーンから褐色で悪臭を伴う排液が認められた。体温38.5℃、Aさんは「手術をしたところの痛みが強くなっています」と言っている。腹部は柔らかい。最も考えられるのはどれか。

1. イレウス
2. 後出血
3. 感染
4. 褥瘡

6 その後Aさんの状態は安定し、経過良好で退院が決定した。退院後の生活に対する指導として適切なのはどれか。

1. フィンガーブジーは1か月に一度行う
2. 退院後は1か月間低残渣食とする
3. 身体障害者手帳の交付が受けられる
4. ストーマは永久的に消毒が必要である

次の文を読み7～9の問いに答えよ。

Aさん(80歳、女性)は52歳の娘と2人暮らしである。アルツハイマー型認知症の診断を受けている。徘徊がひどく、娘は介護のために退職し、現在、在宅で仕事をしている。

7 本日、Aさんは、左手に熱いお茶をかけての熱傷で、娘に付き添われて受診した。熱傷は手背部の一部と指の表皮に水泡を形成する程度であったが、腕や下肢に青あざが多数みられた。看護師がAさんに「これはどうしたのですか」と尋ねると、「あなたは誰ですか。勝手に家に入ってきて失礼ね。放してください」と不快そうに答えた。Aさんにみられている症状はどれか。

1. 失行
2. 失見当識
3. 幻覚
4. せん妄

8 Aさんが治療を受けているあいだ、娘が待合室で1人きりだったので、看護師が娘のそばに行き、声をかけた。「毎日のお母さまのお世話、お疲れ様です。何か困っていることはありませんか」と言うと、娘はうつむいて「もう疲れ果てました。毎日くたくたです。母は若いころからわがままだったけれど、年をとってひどくなった。あまりに腹が立って、たたいたりつねったりしてしまうことがある」と言って涙ぐんだ。看護師の対応で最も適切なのはどれか。

1. 警察に通報する
2. 地域包括支援センターに相談する
3. 措置による老人福祉施設入所の手続きを行う
4. 虐待をやめるよう娘を説得する
5. 娘に心理相談を紹介する

9 その後、Aさんは介護保険を利用することとなった。Aさんの娘は、「悩んだ末に介護保険サービスのグループホームの利用を決めました。少し距離を置いたほうが母にやさしくできるような気がします」と落ち着いた表情で話している。

Aさんの利用する介護保険サービスについて正しいのはどれか。

1. 要支援・要介護者すべてが利用できる
2. 施設サービスである
3. 面会に制限はない
4. 通所サービスと訪問サービス、ショートステイが利用できる

次の文を読み 10～12 の問いに答えよ。

A さん（80 歳、女性）は息子夫婦、孫と同居している。両眼に老人性白内障があり、視力の低下により日常生活に困難を感じるようになったため、片眼ずつ日帰り手術を行うことになった。

10 A さんへの術前の支援で適切なのはどれか

1. 手術の説明を紙に書いて本人に渡した
2. 本人にのみ術後の生活の注意を説明した
3. 「心配なことはないですよ」と伝えた
4. 手術前日は洗髪を行っておくように伝えた

11 超音波乳化吸引術を行った。術後の看護師の声かけで適切なのはどれか

1. 「しばらく眼を閉じていてください」
2. 「術後は 8 時間床上安静となります」
3. 「眼内レンズを入れたので眼鏡はつくらなくてよいです」
4. 「眼がかゆくなったら強く押してみてください」

12 A さんの経過は良好で、予定どおり当日帰宅となった。退院後の生活指導として適切なのはどれか。

1. 「1 週間後に病院にきてください」
2. 「毎回点眼の前に手を洗ってください」
3. 「夜間は眼帯をはずしてください」
4. 「明日から洗髪できます」

次の文を読み 13～15 の問いに答えよ。

Aちゃん(4歳、女兒)は夕食から軽い喘鳴が聴かれていたが、発熱が無いため様子を見ていた。明け方になって激しく咳き込み、明らかな喘鳴と呼気の延長、起座呼吸がみられた

た
め、救急外来を受診した。受診時は、体温 37.0℃、呼吸数 38/分、心拍数 100/分、SpO₂94%であった。

13 受診時の A ちゃんの状態はどれか。

1. 小発作
2. 中発作
3. 大発作
4. 呼吸不全

14 A ちゃんに必要な処置はどれか。

1. 血管確保
2. 酸素吸入
3. 抗アレルギー薬の経口与薬
4. 冷罨法

15 A ちゃんのアレルゲンはダニとハウスダストであった。

家族への指導として適切なのはどれか。

1. なるべく室内で遊ばせる
2. ふとんは乾燥させて掃除機をかける
3. お気に入りのぬいぐるみは処分する
4. 水分を制限する

次の文を読み 16～18 の問いに答えよ。

A ちゃんは妊娠 38 週 0 日に体重 2,800 g で出生した。両親にとって初めての子供である。顔貌の特徴により、染色体検査が必要であることが医師から父親に伝えられた。

- 16 染色体検査の結果、21-トリソミーでダウン症候群と診断された。A ちゃんに合併しやすいのはどれか。
1. 知的障害
 2. 心臓弁膜症
 3. 緑内障
 4. 筋緊張亢進
- 17 診断を告げられ、両親は大きなショックを受けている。看護師は、父親から「ダウン症候群の子どもにはどうかかわっていけばよいのでしょうか」と相談を受けた。看護師の助言として適切なのはどれか。
1. 育てにくいので、施設入所を勧める
 2. 早期療育を行えば健常児と変わらないと励ます
 3. 20 歳まで生きられないと伝える
 4. 発育や発達ほかの子よりゆっくりしていると伝える
- 18 母親はショックから覚めやらず、涙ぐんでいる。看護師の対応で適切なのはどれか。
1. 気持ちが落ち着くまで A ちゃんに会わせない
 2. A ちゃんを抱かせる
 3. 親の会を紹介する
 4. 児童相談所に連絡する

次の文を読み 19～21 の問いに答えよ。

A さん（40 歳、経産婦）は、本日妊娠 35 週 0 日で、妊婦定期健康診断審査のために来院した。体重が前回の健診より 800 g 増加している。血圧 130/95mmHg、尿蛋白（土）、尿糖（土）であった。推定児体重は 2,250g、子宮底長 30cm である。

19 A さんの健康状態のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 体重増加は過剰である
2. 妊娠糖尿病である
3. 妊娠高血圧症候群である
4. 子宮内胎児発育遅延である

20 A さんに必要な指導はどれか

1. 塩分制限
2. 水分制限
3. 妊婦体操
4. 低蛋白食

21 A さんの状態をそのままにしておくと生じるリスクがあるのはどれか

1. 前置胎盤
2. 妊娠悪阻
3. 羊水過多
4. 子癇

次の文を読み 22～24 の問いに答えよ。

A さん（40 歳、女性）は 23 年前に統合失調症を発症し、高校を中退してからは外来通院しながら母親と 2 人で暮らしていた。母親が 1 か月ほど前に心筋梗塞で急死してしまい、家に引きこもっていたところ、姿を見かけないことを心配した近所の住民が民生委員に通報し、保健所に連絡があり、保護されて病院で受診した。

22 A さんは長期間食事をとっていないかった様子で、衰弱が激しいため入院となった、病室では静かに過ごしているが、独語と空笑がみられ、話しかけると答えるが、ほとんど眼を合わせない。A さんに対するアセスメントとして適切なのはどれか。

1. 妄想にとらわれている状態である
2. 希死念慮が強い
3. 流動食にする必要がある
4. デイルームで作業療法に参加することを促す

23 入院して 2 週間が経過し、A さんの身体の衰弱は改善してきたが、独語と空笑は相変わらずみられ、他者とかかわろうとしない。観察すると、服薬後すぐに居室へ行って吐き出していることが確認された。A さんに服薬を促すための援助として適切なのはどれか。

1. 食事に混ぜ込む
2. 主治医から説得してもらう
3. A さんが服薬するのを見守り嚥下を確認する
4. 保護室に移して管理する

24 A さんは服薬を行うようになり、全身状態も改善し、退院することになった。A さんの退院後の生活を支援するために連絡するべきところはどれか。

1. 地域包括支援センター
2. 保健所
3. 福祉事務所
4. 婦人相談所

次の文を読み 25～27 の問いに答えよ。

A さん（50 歳、男性）は、後頭部に激しい頭痛を訴えた後に嘔吐し、意識レベルが低下した。救急車で病院に搬送され、頭部単純 CT 撮影の結果、クモ膜下出血と診断された。入院後、A さんの意識レベルは回復し、簡単な会話ができるようになっている。

25 出血部位を確認するために脳血管造影が行われることになった。大腿動脈穿刺により、カテーテルが挿入された。検査中に注意すべきこととして適切なのはどれか。

1. 患者の不安を強めるため話かけない。
2. 造影剤注入時に頭や首が熱く感じても動かないように伝える
3. 突然の胸痛の出現に注意する
4. 急激な血圧低下に備えてプロタミン硫酸塩を用意しておく

26 脳血管造影後、ただちに開頭脳動脈クリッピング術が施行された。術後は集中治療室に入室した。入室時、A さんには、皮下ドレナージ、脳槽ドレナージ、末梢静脈ライン 2 本、膀胱留置カテーテルが挿入され、酸素吸入（3 L/分）と右鼠径部の大腿動脈穿刺部にスタンチベルトによる圧迫止血が行われている。A さんは呼びかけで開眼し、すぐ目を閉じてしまうもの手指で何かをつかもうとするしぐさがみられる。この時点で A さんに対して行う看護として適切なのはどれか。

1. ドレーンをすべてクランプする
2. スタンチベルトを解除する
3. 頭部を 15～30 度挙上した仰臥位とする
4. ドレーン抜去予防のため両上肢を抑制する

27 術後 1 日、頭部単純 CT 撮影のために検査室に移送することになった。

移送時の安全管理として適切なのはどれか。

1. 皮下ドレーンは解放する
2. 頭部は水平にする
3. 酸素吸入は外して移動する
4. 蓄尿バッグは膀胱より低い位置に固定する

次の文を読み 28～30 の問いに答えよ。

A さん（20 歳、男性）は震度 6 強の大地震で倒壊した建物の瓦礫に両大腿部を挟まれ、動けなくなっていた。地震発生から 36 時間後、右大腿部の切断によって救出され、病院に搬送された。左下肢は長時間圧迫されていたため知覚運動障害があるが、意識は清明であった。

28 入院後、A さんの左下肢は著しく腫脹し、意識混濁が生じた。赤褐色尿と、血液検査で血清カリウム値の上昇が認められ、クラッシュシンドロームと診断された。

A さんにみられる所見はどれか。

1. 血中クレアチンキナーゼ（CK）上昇
2. 血中アンモニア上昇
3. 血糖上昇
4. pH 上昇

29 適切な治療で A さんは一命をとりとめ、意識も回復した。被災して 1 週間が過ぎてから、「命が助かってよかったとは思うけど、これから先のことを考えると不安です。また地震が起るのではないかと考えてばかりいて、自分がおかしくなったのではないかと感じます」と訴えた。

A さんに対する病棟看護師の対応として最も最優先するのはどれか

1. 正常な反応なので気にしないように伝える
2. 心的外傷後ストレス障害（PTSD）の前駆症状だと伝える
3. そう感じるくらい恐ろしかったのですねと伝える
4. 被災体験を振り返り語らせる
5. 精神科受診を勧める

30 A さんから「右足のつま先が痛くてたまりません。なんとかならないでしょうか」と訴えがあった。

A さんに対するアセスメントとして最も適切なのはどれか。

1. ストレスによる健忘がみられる
2. 統合失調症による幻覚である
3. 術後せん妄が生じている
4. 幻視痛がみられている